

大規模留学生会館の設置 について

学習院大学 経済学部 教授

鈴木 亘

問題意識

- 大学誘致同様、留学生の消費需要、住宅需要への期待。
- 留学生には地域への偏見が無い。逆に、この地域も外国人への偏見が無く、懐が深い。「知的な日本語ができる外国人」流入の波及効果は大。
- 国際ゲストハウス構想、国際観光との親和性の高さ。アルバイトとして担い手にもなり得る。
- 小中一貫校が打ち出している外国語教育、国際教育にも一定の貢献が期待できる。

- 大阪には大学が多く、留学生も多いにもかかわらず、留学生会館はどこもひっ迫している状況。専門学校まで入れれば相当数。

- 例)

阪大	1,924
市立大	302
府立大	172
関西大学	521
近畿大学	308

- 新今宮駅周辺は地の利が良く、賃料が安いいため、うまくコーディネートすれば、留学生が多く集まるエリアになり得る。
- その中心としての大規模留学生会館設置はどうか。

東京国際交流会館



- JASSO((独)日本学生支援機構)が建設した大規模留学生会館+国際交流拠点。
- 東京のお台場地区にある。
- 留学生会館の利用は大学院生に限られる。

< 単身用A棟 >

- 地上14階地下1階建、SRC造、330室、1ルーム
20m²
- 外国人留学生35,000円(月額)日本人学生
RA・研究者52,500円(月額)

< 単身用B棟 >

- 地上14階地下1階建、SRC造、300室、1ルーム
30m²
- 外国人留学生45,000円(月額)日本人学生
RA・研究者67,500円(月額)

<夫婦用C棟>

- 地上11階地下1階建、SRC造、110室、2LDK80m²
- 外国人留学生65,000円(月額)日本人学生RA・研究者97,500円(月額)

<家族用D棟>

- 地上9階地下1階建、SRC造、56戸、3LDK100m²
- 外国人留学生75,000円(月額)日本人学生RA・研究者112,500円(月額)

採算性

- 総建設費（設計費等を除く）：312億円（軸工事：112億円、仕上げ工事122億円、電気工事35億円、機械設備39億円、昇降機4億円）。
- 毎年の支出9億円～10億円：一般競争入札の委託業務（設備保守、管理運営、清掃、警備、種々のリース）3.2億円+その他費用（光熱水料+土地借料、公租公課、火災保険、維持修繕費）5.5億～6億円。

- 収入5億円程度：入居料0.3億円+家賃41億円+コンビニエンスストア収入0.3億円。
- 経常的に5億円程の赤字が出ている状態。
- 現在は事業仕分けのために、空室率が高くさらに赤字化。ただし、その前にはほとんど空室は無く、高い競争倍率であったとのこと。
- JASSOは、募集・選考を行い、管理業務は委託（6名体制）。
- H26年に向けて売却予定であるが、売却先が見つかっていない。「大きな箱モノは恐ろしい」
- 土地がリースであるために、その借料も大。

規模や形態をどうするか。

- 800人程度の留学生が入る会館。土地は、大阪市の未利用地を活用することで、1万円～2万円程度の家賃相場を下げる(交通費が浮く)。
- 箱モノを行政が管理するのではなく、入札をかけて定期借地にして、民間の建設にする。
- 行政は、大学生の募集や管理業務、アルバイト紹介、イベント開催、生活支援・相談、様々な支援体制をコーディネートする役割に徹する。
- 集積の利益により、留学生会館の周辺にも、留学生の住宅需要が増加することが期待される。

大阪国際交流センターとの連携

- 公益財団法人大阪国際交流センター
- 天王寺区上本町で、国際会議場、ホテル運営、イベント開催などの国際交流事業や、留学生の生活相談、就職支援等の留学生支援事業を行う。
- 宿舎提供事業として、国土交通省の「特定目的借上公共賃貸住宅制度」を活用し、留学生住宅の管理運営も実施しているが、少ない（大阪市北区紅梅町6-6、単身型48戸、世帯型6戸）。アイハウスへの委託運営もあり得る。

経済効果

- 800人の留学生の消費支出額を日本人の8割とすると、月額7.1万円。年間需要は、波及効果を入れて9.9億円。
- メンテナンス、清掃等の仕事づくりもある程度の期待ができる。
- 日本語を話せる外国人労働力として、観光産業への貢献。教育産業への貢献。
- 文教地区、国際教育地区としてのイメージアップ。
- 留学生目当ての生活雑貨、食料品出店など集積の利益がある。